

英語教育研究法セミナー第1日目 10:00 ～ 11:30

「特別公開ゼミナール」

提案者： 公募により決定
司会進行： 亙理 陽一(静岡大学)
コメンテーター： 酒井 英樹(信州大学)
鬼田 崇作(広島大学)
菅井 康祐(近畿大学)
山森 光陽(国立教育政策研究所)

研究法セミナーでは、これまでに提案してきた研究法・データ分析法・論文を書く際の注意点に関する一般的指針を踏まえ、過去二大会において、公募により選ばれた研究課題を検討する公開ゼミナールを開催してきた。先行研究の整理・検討から引き出した研究課題や修士・博士論文の全体的な構想の提示を受け、研究法・分析法について多様な専門領域の研究者からコメントをもらうことで、当該研究の意義や課題がより明確になり得る視点を共有することができている。今年度も、研究の「種」を公開ゼミナールとして検討する場を共有し、具体的な研究計画の素案に基づいて、研究をより良いものとするために、研究課題の設定や調査・実験・実践のデザインにおいて考えるべきポイントを参加者全員で深めたい。

英語教育研究法セミナー第2日目 12:05 ～ 12:55

◆セミナー第1会場： 藤田 卓郎(福井工業高等専門学校)

「よりよい実践研究を行うための10のポイント」

本発表では、これから教師を目指す学生の方や、教室内での実践を対象に研究を進めたいと考えている先生方を主な対象として、実践研究を進めるためのポイントについて考えます。具体的なツールや事例を可能な限り多く紹介しながら、実行可能性を重視して発表できるように努めたいと思います。英語教育において、実践研究の方法について考える場はあまり多くはないように思いますので、実践研究を行う上での悩みや事例、研究のあり方を共有する場となれば幸いです。

◆セミナー第2会場： 草薙 邦広(広島大学)

「量的研究の心構え」

昨今、英語教育研究では、「量的研究について考えなおすべきだ」という機運が高まっています。このような機運は、いわゆる統計改革やベイズ統計の流行に加え、(a)心理学の再現可能性問題、(b)政策エビデンスを巡る議論、(c)産業界におけるデータサイエンスの流行、(d)構成概念妥当性観の変化などといったこととも実に複雑に関連しています。本セミナーでは、量的研究について関心をお持ちのすべての方と、このような時勢の中、英語教育研究における量的研究をどのように捉え、どのような心構えをもって研究に励むべきか、一緒に考えを深めたいと思います。また、日頃の研究でお悩みのことを、フロアと気軽に共有できるような時間も用意したいと思っています。